

プロジェクト推進部会

2019年度活動報告（最終報告）



1. プロジェクト推進部会の役割・検討経緯
2. 【成果①】 ビジョンの実現に向けた全体戦略
3. 【成果②】 2019年度スカモビ支援プロジェクト＆支援メニュー
4. 2019年度活動に関する総括

1. プロジェクト推進部会の役割・検討経緯
2. 【成果①】 ビジョンの実現に向けた全体戦略
3. 【成果②】 2019年度スカモビ支援プロジェクト＆支援メニュー
4. 2019年度活動に関する総括

プロジェクト推進部会の役割について

- モデルシティ構築に向けて、2つの部会が連携しながら取組を推進
- プロジェクト推進部会では**実証プロジェクトの推進を主に担当**

ヨコスカ×スマートモビリティ推進協議会

【会長】 中村 文彦 横浜国立大学 副学長

【役割】 スカモビの企画、実施、展開等に必要な事項に関する協議 等



要請への対応等

報告、要請等

プロジェクト推進部会

【主査】 越塚 登 東京大学大学院 情報学環 教授

【役割】 実証プロジェクトの戦略的・効果的推進 等

報告、要請等

要請への対応等

社会展開推進部会

【主査】 梶田 佳孝 東海大学 工学部 教授

【役割】 ニーズ調査及び周知・広報戦略の検討 等

戦略
提示

提言

支援

報告・要請

提言

戦略
提示

PJ1

PJ2

PJ3

実証プロジェクト

裾野拡大

スマートモビリティ・チャレンジ・ネットワーク

【役割】企業・大学等の連携によるイノベーション創出



スカモビ2020実行委員会

【委員長】 甕 昭男 YRP研究開発推進協会 会長

【役割】スカモビの周知・広報、社会受容性の向上



プロジェクト推進部会の構成員一覧

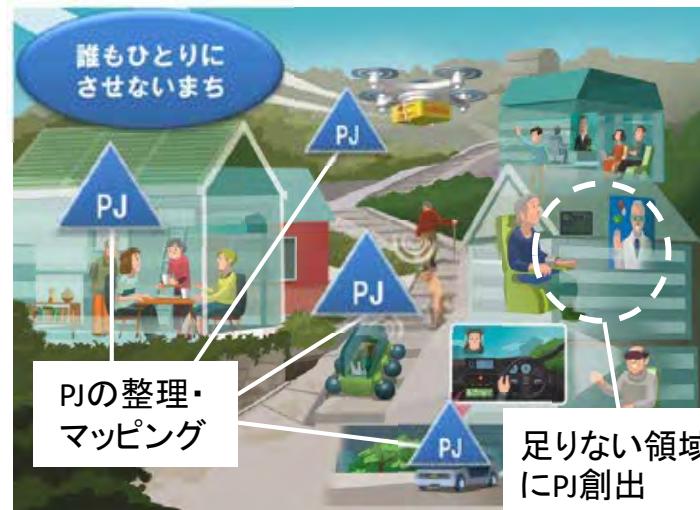
構成員等

※主査を除き五十音順

	所属・役職	氏名
主査	東京大学大学院 情報学環 教授	越塚 登
	KTグループ株式会社 専務取締役	東 昭人
副主査	横浜国立大学大学院 都市イノベーション研究院 特任准教授	有吉 亮
	(国研)海洋研究開発機構 経営企画部 企画課長	磯野 哲郎
	モビリティジャーナリスト	楠田 悅子
	株式会社NTTドコモ 法人ビジネス本部 第一法人営業部 第五営業・第二担当 担当課長	末次 光
	株式会社浜銀総合研究所 地域戦略研究部 部長	添野 好一
	京浜急行電鉄株式会社 グループ戦略室 担当課長	高橋 淳
	関東学院大学 理工学部 理工学科 情報学系 准教授	永長 知孝
副主査	(国研)情報通信研究機構 ワイヤレスネットワーク総合研究センター長	浜口 清
	沖電気工業株式会社 情報通信事業本部 IoTアプリケーション推進部 担当部長	浜口 雅春
	株式会社NTTドコモ R&D戦略部 研究開発推進担当 担当課長	涌井 道子

○オブザーバー:関東総合通信局、関東運輸局、関東経済産業局及び神奈川県

ビジョンの実現に向けた戦略立案

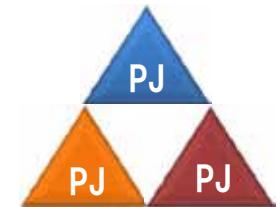


- ・ロードマップや全体ビジョンにおけるプロジェクトの位置づけ整理、マッピング等
 - ・上記の整理等に基づくプログラムの構成見直し
- ※PJ: プロジェクト

プロジェクト間の連携推進



プロジェクトへのニーズ反映



社会展開推進部会

- 地元企業
- 地元大学
- 地元関係団体

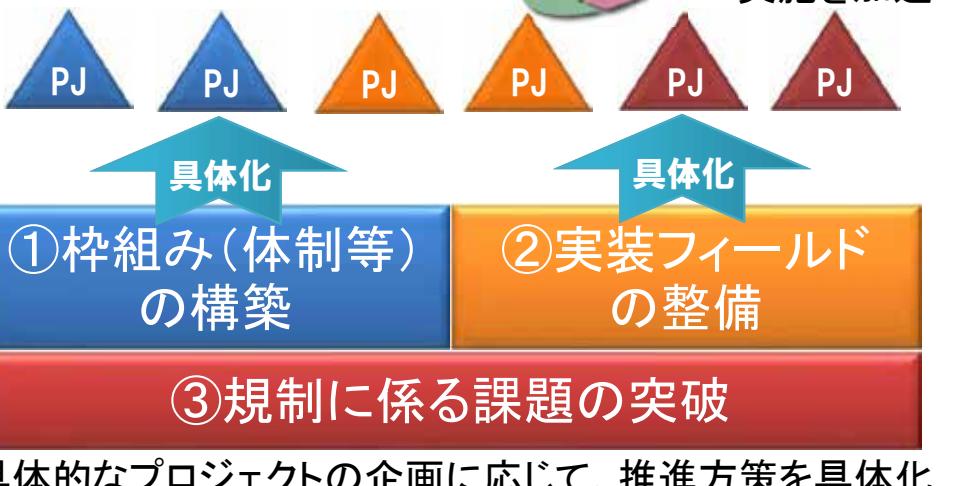
プロジェクトへのニーズ反映
プログラムの構成や新規プロジェクトへのニーズ反映



イベントのアンケート調査

地域の移動に係る潜在的な需要調査(国の事業と連携して実施予定)

推進方策の具体化



横須賀スマートモビリティ宣言との対応関係

横須賀スマートモビリティ宣言(2019年1月 協議会決定)



3つのまちづくりビジョン

プロジェクト推進部会
の主な検討範囲

①体制などの構築 —PJ創出、有機的な連携 など

スカモビ支援 パッケージ

③規制の突破 —規制緩和の支援 など

②フィールドの整備 —実装・実証環境の整備 など

④社会受容性の向上

⑤情報発信・広報

⑥連携等の推進

⑦人材育成・確保

2019年度の検討の動き等

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3~5月	6月
会合											

8/8 第1回

- ✓ 合同部会の開催を検討すべき
- ✓ 全体設計を意識した議論をすべき
- ✓ 独自性と汎用性のバランスが重要

10/7 観察ツアーリポート

- ✓ 都市OSなどを含め全体戦略案を議論
- ✓ 実証からボトムアップ的に都市OS等を検討すべき

11/21 第2回

- ✓ 実証実験(特にAI運行バス)について双方向で議論
- ✓ 次年度のアイデアを意見交換

2/13 合同部会
中間報告

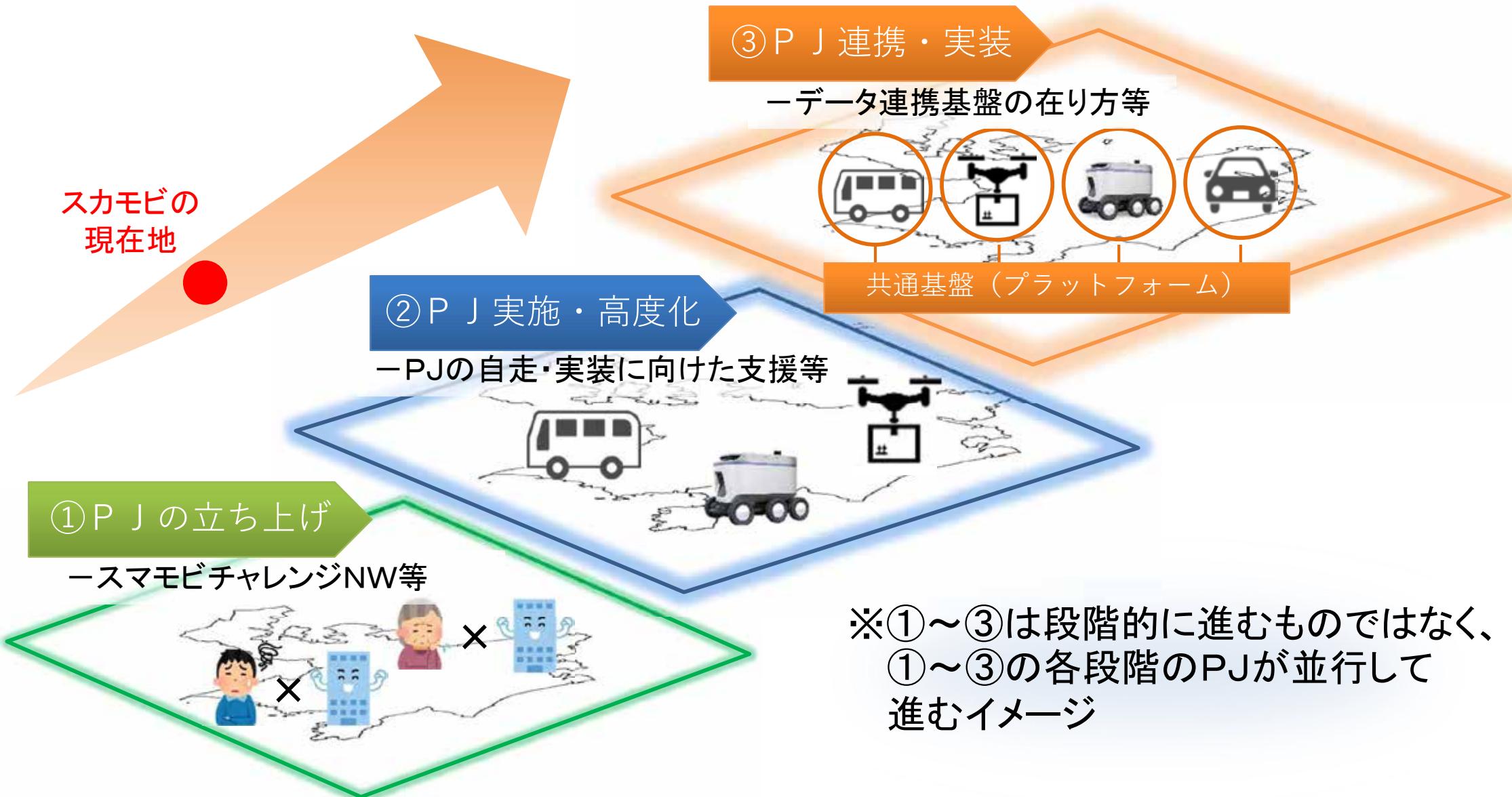
- ✓ まちづくり課題とスカモビ宣言(ビジョン)との関係について

6/17~6/30 第3回
(書面審査)

1. プロジェクト推進部会の役割・検討経緯
2. 【成果①】 ビジョンの実現に向けた全体戦略
3. 【成果②】 2019年度スカモビ支援プロジェクト＆支援メニュー
4. 2019年度活動に関する総括

ビジョン実現に向けた全体戦略

- PJ実施・高度化の視点だけでなく、よりマクロ／ミクロな視点も重要
- **①PJの立ち上げ～③PJ連携・実装に至る各視点で活動計画を策定**



スマートモビリティ・チャレンジ・ネットワークの進め方

- 8月に実施したキックオフイベントの参加者は約400名
- スマートモビリティ・チャレンジ・ネットワーク参加希望は161社

スマートモビリティ・チャレンジ・ネットワーク 第1回シンポジウム

○日 時：2019年8月28日（水） ○場 所：TKPガーデンシティ品川

○プログラム（敬称略）

- ・来賓ご挨拶 小泉衆議院議員／横須賀市 田中副市長
- ・基調講演 横浜国立大学 中村副学長（ヨコスカ×スマートモビリティ・チャレンジ推進協議会会長）
- ・パネルディスカッション
 - モデレータ 横浜国立大学 中村副学長
 - パネラー 京浜急行電鉄 原田社長、NICT 門脇理事
 - NTTドコモ 中村CTO
 - オブザーバー 総務省 鈴木事務次官
- ・支援PJ報告 楽天／ANA／NTTドコモ



支援プロジェクト報告

今年度の活動方針

- 参加希望者を対象に、セミナーで検討成果(現地視察結果など)を提供
- セミナーではアイデアソン的要素も加え、新規プロジェクト創出を図る

開催時期と場所：2020年2月下旬@都内を想定

提供できるアセット

新型コロナの影響で延期中

社会展開推進部会で実施した
「現地視察ツアー」の結果説明

横浜国立大学が実施した「移動
に関する実態調査」の結果説明

スカモビ支援メニュー紹介
令和2年度の補助メニューの斡旋 等

アイデアソン的な要素もえたイベントを企画

新規プロジェクトの創出

支援プロジェクトの実施・高度化に向けた取組み

- 今年度実証予定の主要な支援PJを対象に、支援メニューを具体化
- **部会でのヒアリング+伴走型ヒアリングを実施する形でどうか**

今年度実施予定の主要な支援PJ



部会でのヒアリング

—専門家によるアドバイス
やアイデアの提供 等

+

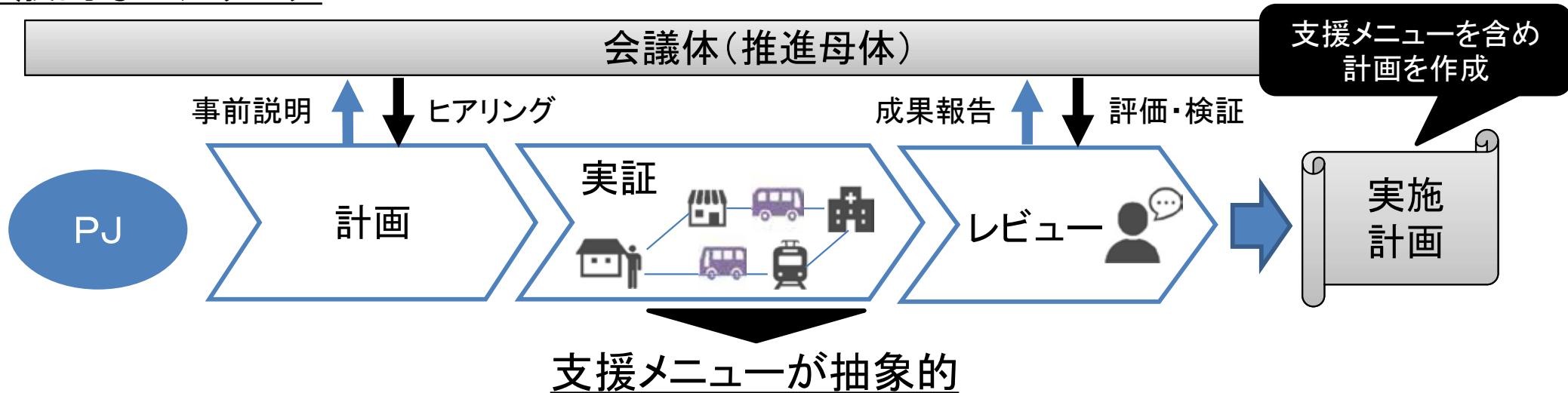
伴走型ヒアリング

—スカモビ事務局(横須賀市)による
アイデア等の具体化支援 等

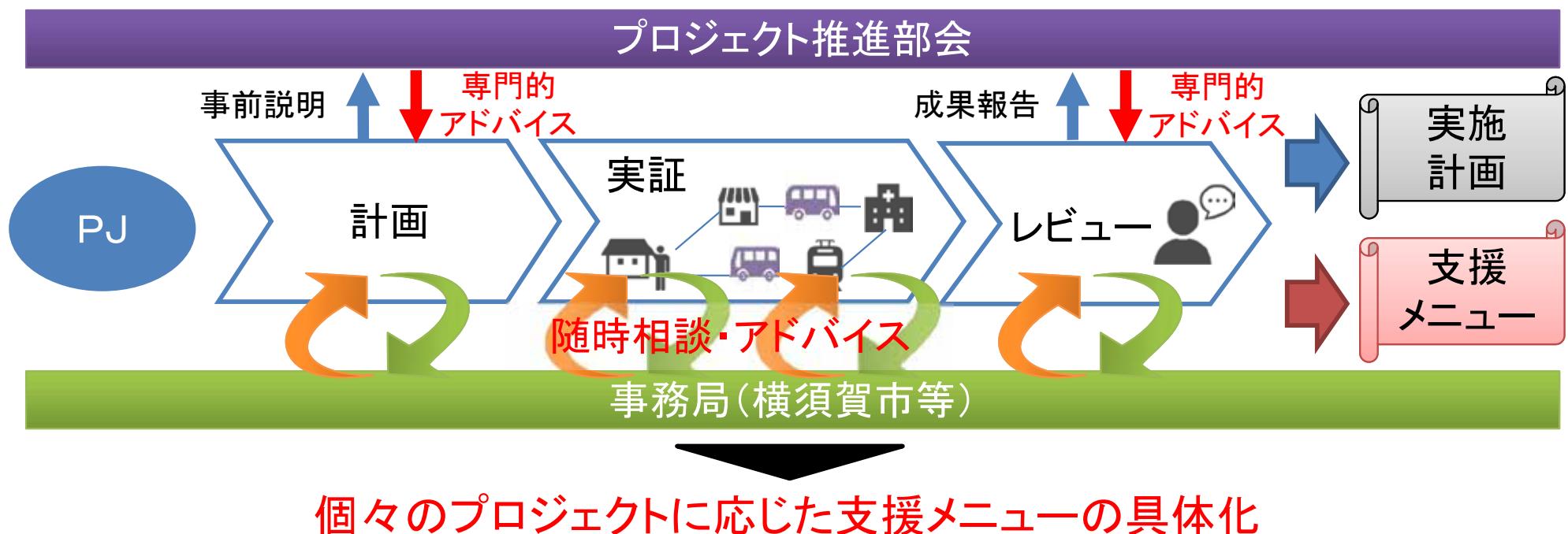
PJごとの
支援メニュー

伴走型ヒアリングとは

○一般的なヒアリング



○伴走型ヒアリング



都市OSに関する政府の検討状況等について

- 日本のスマートシティの取組の水準は高いが、連携が課題
- 連携のためには、アーキテクチャーが極めて重要



個別分野のサービスの精度は高いが…

(1) 分野間連携

- 都市内でも防災と交通が連携していない

(2) 都市間連携

- 住民が他都市に引っ越すと使えない

(3) 開発時の連携

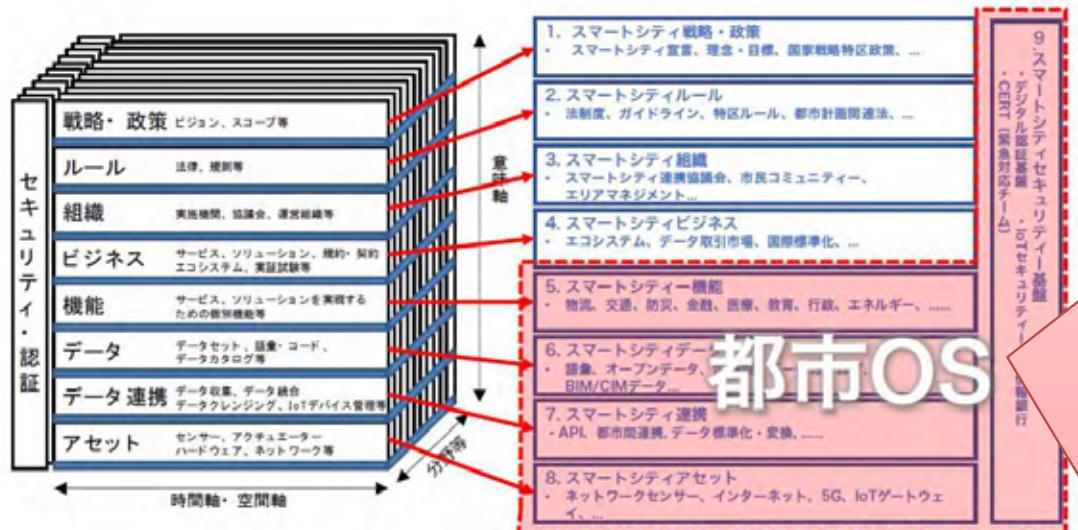
- 他都市へのシステム転用ができない

に課題がある

都市OSに関する政府の検討状況等について

- アーキテクチャ = スマートシティの①定義、②要件、③KPI等を定めたもの
- システム・サービスの共有・再利用性を高める、都市OSの概念が重要

スマートシティ参考アーキテクチャ（素案）



都市OSのイメージ



APIを共通化することで、スマートシティのサービス・システムの再利用を可能に

1. プロジェクト推進部会の役割・検討経緯
2. 【成果①】 ビジョンの実現に向けた全体戦略
3. 【成果②】 2019年度スカモビ支援プロジェクト＆支援メニュー
4. 2019年度活動に関する総括

スカモビ支援プロジェクト一覧

17

- 2019年度に市内で実施したスカモビ支援プロジェクトは7件
- うち、全国初の取り組みは4件

※実施順で記載

項目番号	実施事業者	実施期間
①	Universal MaaS ANA、京急、横浜国立大	5/26～
②	ドローン配送 楽天	7/4～9/28
③	ロボット配送 楽天	9/21～10/27
④	アクセル踏み間違い防止装置 横須賀市	12/1
⑤	AI運行バス ドコモ、京急	12/9～2/24
⑥	自動運転バス ドコモ、京急、群馬大学	2/7、2/8
⑦	トリタウン ヤマハ発動機	2/18,19



スカモビ支援プロジェクトの紹介①

18

～誰もが移動をあきらめない世界の実現を目指すUniversal MaaS～

- 全日本空輸、京浜急行電鉄、横浜国立大学、横須賀市が協力
- ユニバーサルデザインの発想で包括的な移動サービスを実現
- 2019年6月にプロトタイプを構築、2020年度内の社会実装開始を目指す

Universal MaaSの概念

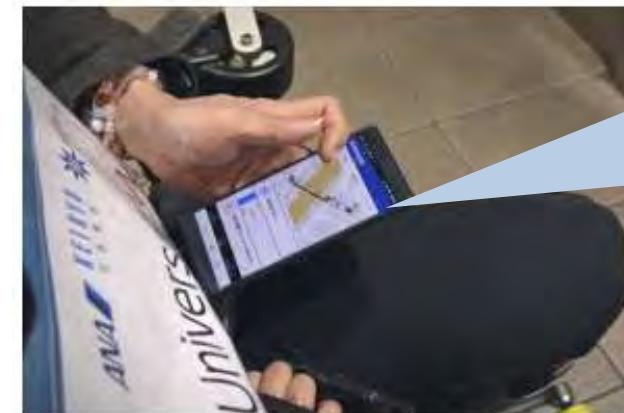


何らかの理由で移動にためらいのある方が快適にストレスなく移動を楽しめるサービス。

交通機関の運賃、運航・運行状況、バリアフリー乗り継ぎルート等を提供するとともに、リアルタイムな位置情報や必要とする介助の内容を交通事業者、自治体、大学が共有・連携し、シームレスな移動を実現

実証イメージ

実施期間:2019年5月26日～継続的に対象者限定の実証実験を実施中



利用者アプリ

利用者の特性に応じたルートや施設内の案内を表示



事業者アプリ

利用者の特性や位置情報が配信され、旅客対応を効率化

スカモビ支援プロジェクトの紹介②

～ドローン物流による観光振興～

- 市内の猿島で、楽天がドローンによる配送サービスを実施
- 2019年7月から約3ヶ月間の期間限定での実施
- 離島の一般利用者を対象としたドローン配送サービスは国内初

使用機材等

配送に特化したドローン機材を使用



ドローン配送専用のショッピングアプリ



重量インジケーター付き

サービスイメージ

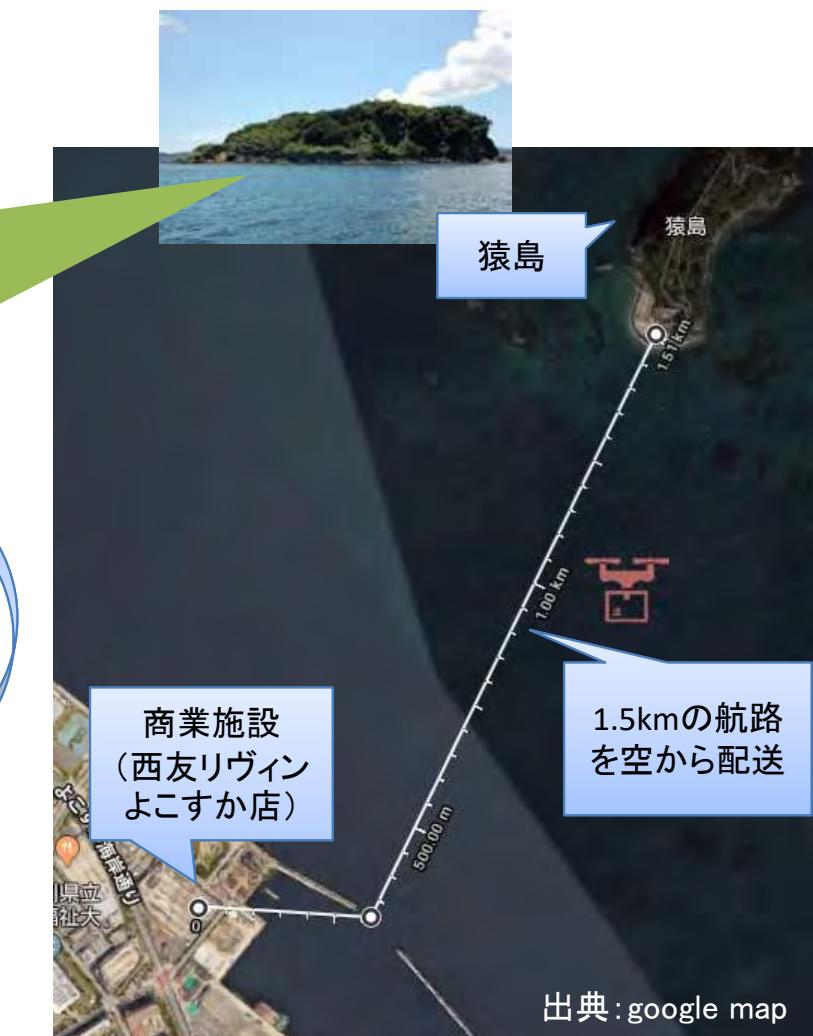
猿島



レジャー客に対し、BBQ食材、
飲料等をドローンで配送



商業施設



スカモビ支援プロジェクトの紹介③

～ロボット物流による観光振興～

- 市内のうみかぜ公園で、楽天がロボットによる配送サービスを実施
- 2019年9月から約1ヶ月間の期間限定での実施
- 一般利用者を対象としたロボット配送サービスは国内初

対象エリア



実証イメージ

実施期間: 2019年9月21日から約1ヶ月間の週末
利用方法: 「楽天ドローン」アプリから注文
配 送 料 : 300円
主な商品: 精肉、野菜、酒、飲料、消耗品、絆創膏
などの救急用品など





スカモビ支援プロジェクトの紹介④

～安全・安心の確保に向けたアクセル踏み間違い防止装置イベント～

24

- 横須賀市では、踏み間違い加速抑制装置の補助金制度を創設（県内初）
- 当該装置の普及率向上に向け、安全運転サポートカーの啓発イベントを開催

補助金概要

県内初



○64歳以下(横須賀市補助制度対象)
購入設置代金の1/2(上限:1万6千円)

○65歳以上(国補助制度対象)
4万円(障害物検知機能有り)
2万円(障害物検知機能無し)

イベント概要

名 称:自動車安全技術体感フェア2019

開催日:2019年12月1日(土)

会 場:横須賀市平成町「nojimaモール」駐車場

来場者:700名

主 催:横須賀市、ヨコスカ×スマートモビリティ・チャレンジ事務局
出展者:自動車販売会社、自動車用品販売会社ほか



踏み間違い加速抑制装置(後付け)
(自動車用品店専売品)



踏み間違い加速抑制装置(後付け)
(神奈川トヨタ販売店オプション)



衝突被害軽減ブレーキ(新車)

スカモビ支援プロジェクトの紹介⑤

～A I 運行バスによる地域生活継続支援（健康生活の創生と定着）～

- NTTドコモ、京浜グループ、横須賀市の連携協定※に基づき実施**
- 2019年12月から約3ヶ月間の期間限定での実施
- 地域の商業／医療施設とシステム連携した実証は全国初**

※ 「横須賀スマートモビリティ宣言」を踏まえ、2019年1月に3者での連携協定を締結

対象エリア等

AI運行バス
の外観 →



実験概要

実施期間: 2019年12月9日(月)から2020年2月24日(月)

※年末年始(12月27日～1月6日)は休止

運賃: 大人300円、小学生150円、未就学児0円

運行時間: 8:00～19:00

車両台数: 3台(乗車定員5～9人／台)

実証モニタ: 逸見地区を中心とする住民

予約方法: スマートフォンアプリorコールセンター電話予約



スカモビ支援プロジェクトの紹介⑥

～自動運転バスによる通勤者や住民の利便性向上や地域活性化～

- **NTTドコモ、京急グループ、群馬大学、横須賀市**の連携プロジェクト
- 2020年2月のスカモビ2020で、YRP野比駅～YRPセンター間を走行
- 社会実装を見据え、**通信を活用した遠隔監視システムを構築**

※ 「横須賀スマートモビリティ宣言」を踏まえ、2019年1月に3者での連携協定を締結

実証区間



実験概要

実施期間: 2020年2月7日(金)から2020年2月8日(土)
車両: 日野自動車ポンチョを改造した車両(ナンバー取得済)
利用方法: 予めスカモビ2020HPにて予約
実証目的: 実際に、京急バスの運転士に自動運転システムを体験頂き、社会実装に向けた課題を洗い出す

自動運転バス外観



遠隔監視席 (YRP1番館に設置)



～パーソナルモビリティを活用した拠点間移動の効率化～

- ヤマハと横須賀市で「横須賀市TRITOWN公道実証実験運営協議会」を結成
- 2020年2月に、公道走行に向けた関係者走行を実施(周遊性向上を目的)
- 一般利用者向けの実証も予定していたが、新型コロナの影響もあって中止

実証区間



実証概要

実施期間: 2020年2月18日(火)、2月19日(水)
車両: パーソナルモビリティ「TRITOWN」
走行形態: 搭乗型移動支援ロボットの認定を受け、歩道を走行
実証目的: TRITOWNの走行安全性の確認(将来的には拠点間の周遊性向上への活用を検討)
実証結果: 事故や苦情の発生は無く、安全性を確認することができた



三笠公園～うみかぜ公園間
(走行距離: 約2.4km(往復))

写真提供: ヤマハ発動機(株)

1. プロジェクト推進部会の役割・検討経緯
2. 【成果①】 ビジョンの実現に向けた全体戦略
3. 【成果②】 2019年度スカモビ支援プロジェクト＆支援メニュー
4. 2019年度活動に関する総括

2019年度活動に関するまとめ

<体制などの構築について>

- スカモビ支援プロジェクトについて、その取組を支援するため、部会におけるアドバイス等を行った
- 社会実装に向け、より一層の支援の具体化が必要

<フィールドの整備について>

- 事務局として、特に現場（地元の自治会長さまなど）との調整を精力的に実施し、実証の円滑かつ効果的実施に貢献した
- 将来の社会実装に向けて「都市OS」等のデータ基盤の在り方について検討を開始した
- まちづくりビジョン×データ基盤について具体化が必要

<規制の突破について>

- 事務局として、規制緩和に係る政府検討への参画、所轄警察署等との調整などに貢献した
- 継続して上記のような活動を通じた貢献が重要